

長野県 火山防災のあり方検討会中間報告書（案）に関する  
御嶽山噴火災害被災者家族等の代表者との意見交換会実施結果

日時：平成 28 年 12 月 14 日（水） 午後 1 時～3 時  
場所：長野県松本勤労者福祉センター 第 2 会議室

カテゴリ	内容	反映箇所
検討会の開催等に関して	<p>・ビジターセンター（以下 VC）云々ではなく、中間報告書のなかで御嶽山を他の火山と同列に扱っていることに疑問を感じる。火山によって異なる特徴があるので、<b>まず、御嶽山だけを対象に取組み、その取組みをお手本にして他の火山に波及させるべきだったのではないか。</b>VCについても、各火山の特徴を踏まえてつくっていくべきではないか。</p> <p>・御嶽山の噴火災害では「きちんと知らせる」ということができていなかった。「<b>中間報告書ではなく、一番最初に意見を聞いてほしかった。</b>犠牲者は、なぜ死ななくてはならなかったのか」というところからスタートすべきであった。</p>	<p>2 編 1 章 3 ビジターセンターの望ましい方向性</p> <p>2 編 4 章 4（1）登山者、観光客に向けた情報発信の方針</p> <p>4 編 1 章 1 ビジターセンターとしての「役割」</p> <p>4 編 3 章 御嶽山における見通し</p> <p>2 編 5 章 2（3）噴火の記録・伝承をサポートする機能</p>
VC で発信する情報について	<p>・御嶽山はこれまで 3 回噴火しているのに、なぜ、当時あのような観測体制になっていたのか。登山者の自己責任というのであれば、（当時から）きちんと人材を育成したり、火山性微動について広く周知したりするべきだったのではないか。犠牲となった息子の友人も、当時、御嶽山が活火山であると知っていれば登らなかったと話している。</p> <p>VC ができることは、嬉しく思う。「<b>御嶽山は火山です</b>」ということを強調すると観光に影響があるといわれているが、<b>火山防災と観光の両方を大切に、頂上周辺は危険だということ伝えるべきだ。</b></p> <p>・御嶽山が活火山であると知っていたら、登山を止めたと思う。本人も知らずに登っていた。</p> <p>文字で書いても、知らせても、その時にならないと実感を持ってわからないので、山小屋などで「こんなことがあった」と登山者に教えてほしい。子どもにも、小さいときから教えてほしい、教科書にも載せてほしい。</p> <p><b>VC も、ハコモノをつくるだけではなく、きちんと直接「教える」ことをしてほしい。</b></p> <p>VC は、みんなが訪れたいと思うような、春には桜、秋には紅葉を楽しめるような場所にしてほしい。</p> <p>・噴火の半年後に松原スポーツ公園でおこなわれた慰霊祭では、異なるさまざまな宗教者が祈りを捧げてくれた。地元の住民も、100 人以上きて一緒に祈ってくれた。自分たちと一緒に祈ってくれていると感じ、ありがたかった。<b>火山防災を伝える際には、今回犠牲者がいた頂上での滞留を短くするよう呼びかける文面が必要。</b></p> <p>・御嶽山は活火山であるということを強調してほしい。犠牲を水際で防ぐためには、看板等に「御嶽山（活火山）」とするくらいでよいと思う。</p>	<p>4 編 1 章 2（3） 施設利用者の特性や施設同士の連携について</p> <p>2 編 4 章 4（3） 現状の課題と望ましい情報発信</p> <p>4 編 1 章 1 ビジターセンターとしての「役割」</p> <p>「水際で」「単純なこと」という単語を反映予定</p>
施設のあり方について	<p>・犠牲になった方の残した写真が展示されていると聞き、ロープウェイ駅で探したが、結局あまり人の目に触れない場所にあった。<b>必ず、絶対に、たとえ周囲が暗くても、訪れる人が目にする場所で伝えなくてはならない。</b></p> <p>・現在の地元町村の VC 構想に足りないことは、今回の噴火災害はこれまでにない最大の犠牲者をだした大惨事であり、それをきちんとした場所で、長くきちんと学べるようにすることである。遺品を VC の一角に展示することには反対する。遺族にとっては大切な形見。登山口の VC は、火山防災上の情報を、端的に伝える VC であるべきである。</p>	<p>4 編 1 章 2（3） 施設利用者の特性や施設同士の連携について</p> <p>2 編 4 章 4（3） 現状の課題と望ましい情報発信</p> <p>4 編 1 章 1 ビジターセンターとしての「役割」</p>

<p>情報伝達や観測機器の体制強化について</p>	<p>・今回は情報が伝わってさえいれば、死ななくて済んだ人が多くいる。噴火当時急っていた「知らせる」ということが大切。気象庁からの FAX が届いたら、「誰が」「何を」するのかについて、県できちんと決めてほしい。</p> <p>観測のための地震計を設置しても、時が経てば壊れてしまうこともある。<b>誰かが責任を持って、長く使えることが大切。</b></p>	<p>4 編 1 章 2 (3)</p> <p>施設利用者の特性や施設同士の連携について</p>
<p>VC と山小屋等との連携強化について</p>	<p>・このような災害がなぜおきてしまったのか、2 度と起きないようにするには、異変時には躊躇なく入山規制などをおこなうことが最も大切だと思う。こうした情報伝達の取組みは、<b>VC の取組み内容に合致すると考えている。</b></p> <p><b>VC と山小屋等の情報共有も大変重要になる。</b>長野県には、地元自治体の連絡・防災体制をチェックする機能を持ってほしい。閉庁時であっても、機能するようにしてほしい。</p>	<p>4 編 1 章 2 (3)</p> <p>施設利用者の特性や施設同士の連携について</p>
<p>ミュージアムのような施設の必要性について</p>	<p>・1991 年の雲仙普賢岳の噴火時は、警察や報道関係者が犠牲になっている。今回は、一般の方が犠牲になっていることが大きく異なっている。</p> <p>雲仙普賢岳にある雲仙岳災害記念館のように、噴火時の様子を正確に伝えられる施設をつくれるように希望する。</p> <p>・<b>VC と記念館（山びこの会における仮称「火山防災ミュージアム」）を区別して考えてほしい。</b>VC は、登山口等で「簡単に」「わかりやすく」「短時間で」伝える情報発信をおこなう。火山防災ミュージアムでは、噴火災害を風化させないために必要な展示をおこなう。広義での VC ではなく、ポイントを絞って考えてほしい。</p> <p>・マイスター制度も、現状では着地点が見えていない。<b>地域に根ざした火山防災ミュージアムをつくり、ここを基点にマイスターなどが育っていくようにしてほしい。</b></p>	<p>2 編 5 章 2 (3) 噴火の記録・伝承をサポートする機能</p> <p>4 編 3 章 御嶽山における見通し</p> <p>4 編 1 章 1 ビジターセンターとしての「役割」</p>
<p>マイスター制度について</p>	<p><b>被災者にもマイスターを目指す人がいる。</b>最初の一步として、そうした人の掘り起こしから始めては。</p>	<p>3 編 2 章 4 想定される人材</p>